

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1191800232		
法人名	医療法人社団 愛優会		
事業所名	グループホーム草加原町		
所在地	草加市原町3-15-30		
自己評価作成日	平成31年3月5日	評価結果市町村受理日	令和1年7月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社シーサポート
所在地	埼玉県さいたま市浦和区領家2-13-9
訪問調査日	平成31年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々やボランティアの方、そしてご入居者ご家族様など、人との関わり合いを大切に、施設入居者様が孤立しないように努めております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 利用者への支援の充実のため、業務改善に注力しており、入浴の実施日の工夫により外出の機会を増やす努力がなされています。利用者の重度化を理由とせず改革に取り組む姿勢は、他の事業所の範となるものです。
- 市内グループホームの交流会への参加など関係機関との連携がなされています。また認知症カフェの開催など地域への貢献活動もなされており、日頃より地域の方との接点を持つことで協力体制を築けるよう取り組んでいます。
- 日々の支援記録に下欄にケアプランの短期目標を記載し、常に職員が意識出来る仕組みを構築しています。サービス担当者会議・職員へのアンケートの実施により意見を集約し、ケアプランの策定がなされています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設理念に基づき、個々の職員がご入居様の「笑顔」「尊厳」を第一に考えて日々の支援を行うよう努めている	事業所の開設より5年が経過する中、職員の採用・育成に対して方向性が見いだされている。支援方法・書式等業務改善が図られており、事業所独自の運営方法が確立している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会への加入による町会行事への参加、共同菜園を通しての近隣住民との交流は継続している	近隣との日常からの付き合いにより多様な協力を得ている。近年の注力が成果として表れており、ホームへの理解が深められている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は認知症カフェを3回実施し、たくさんの方に参加して頂くことができた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は5回実施し、様々な意見交流を行うことができた	民生委員、自治会、地域包括支援センター、後見人、家族等の方々に参加し、開催がなされている。定期開催を実現しており、地域との交流の場として活用されている。	近隣の居宅介護支援事業者などこれまでの出席者と異なる方々の招待を検討しており、多様な意見を運営に反映させていく意向をもっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの方の運営推進会議参加や、社協後見人の方の月1回の訪問時に施設運営状況などの報告を行っている	市内グループホームの交流会への参加など関係機関との連携がなされている。また認知症カフェの開催など地域への貢献活動もなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	会議や施設内研修などにより個々の職員が身体拘束に対する知識を深める努力をしている また、身体拘束廃止手順書を各フロアに設置 フロアの入り口のみ安全上の問題で施設内に 施設内に 身体拘束対策委員会を設置、4回の会議を実施し、その内容は運営推進会議で報告している	委員会の開催、研修の実施により職員への指導にあたっている。センサーの使用など職員の見守る力を活かしながら利用者が安全に暮らせるよう取り組んでいる。	認知症カフェにおいて身体拘束について講義をするなど地域の方々に対しても理解を深めてもらう取り組みを検討している。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修で個々の職員が虐待に対する知識を深めるとともに、ご入居者様の様子や身体の異変を見過ごすことのないよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご入居者様2名の方に後見人の方がいるため、日々交流している 権利擁護については施設内研修で個々の職員が知識を深める努力をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時及び施設運営内容に変更が生じた時は、その都度、口頭や案内送付により説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼び掛けて、その場で感想や意見などを述べて頂いている	面会や電話にてコミュニケーションを図り、家族に様子を伝えている。特に新しい入居者の家族に対してはホームでリードしながら関係性の継続を支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全体会議を開催し、運営状況報告や意見交換などを実施している	職員がそれぞれの気づきを話し合い、ホームとしての統一した見解を導き出すよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の負担軽減のため「働き方改革」に基づき、入浴日の曜日固定や食事当番1人体制は今年度も継続 食材買い出しも2人体制とし効率化を図った		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修への参加を積極的に勧め、シフトを調整するなどして参加できる環境を整えるよう努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今年度も草加市「RUN伴」参加事業者との交流を実施 草加市GH交流会へ参加し、他施設管理者との意見交換を行う		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居者様からの要望や意見については、ご家族様のご意見も伺い、早期解決・改善に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の施設訪問時だけでなく、電話などでも積極的に関わりを持つ場を設け、ご家族様が意見や要望を伝えやすい雰囲気作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設ケアマネによる定期的な聞き取りを行い、サービスに活かすよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の中の様々な家事にご入居者様が参加して頂けるよう働きかけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内での行事等の案内をご家族様に行い、参加して頂いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	職員がパイプ役となり、馴染の方との関係が継続できるように支援している	読書・裁縫等利用者の趣味が継続できるよう支援に努めている。また家族との繋がりが保てるよう後援にあたっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者様の性格などを考慮してフロアの座席配置を考え、交流を持ちやすい環境を提供している 家事を共同で取り組んで頂き、ご入居者様同士の関わりを持って頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族様からの要望があれば相談にのるなど、柔軟に対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の職員が普段の生活の中で、ご入居者様の思いや意向を汲み取れるように努めている また、ケアプラン更新時には必ずご入居者様の思いや意向を伺い、サービスに反映させるように努めている	利用者になるべく声を掛け、コミュニケーションをとることで意向の把握に努めている。意思の疎通が困難な場合も職員同士の経験を持ち寄り、利用者にとって最善の支援となるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各居室には今まで使っていたものなどを持ち込んで頂き、穏やかな気持ちで生活して頂けるような環境整備に努めている ご入居者様の情報はファイリングして全職員が常に確認できるようにして、情報の共有に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時申し送りだけでなく、業務の中での情報交換や情報共有など積極的に行い、ご入居者様の現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様の要望は面会時や電話にて聴取を行っている 職員からはアンケートやカンファレンス、日々の会話などでの情報交換や意見交換を行い、介護計画に反映させるように努めている	日々の支援記録に下欄にケアプランの短期目標を記載し、常に職員が意識出来る仕組みを構築している。サービス担当者会議・職員へのアンケートの実施により意見を集約し、ケアプランの策定がなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	施設内研修により個々の職員が記録の重要性を理解し実践するように努めている 記録漏れがある場合は速やかに追記や訂正することを徹底している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	様々なニーズにはその都度、柔軟な対応を取るように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不定期ではあるが、近隣店舗に散歩を兼ねた買い物に行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科訪問診療：西葛西三丁目診療所 2回/月 歯科訪問診療：長栄歯科による定期訪問	法人内クリニックによる往診により利用者の健康管理がなされている。医療機関との連携については入居時より説明し、理解を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師との情報共有に努め、ご入居者様の体調変化に迅速な対応をとるよう努めている 月二回の内科訪問診療には施設看護師が同席している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご入居者様が入院した際には、病院相談員の方と相談し、退院後の施設環境を整えたり、状態変化に応じた対応を柔軟に行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	職員・看護師・ご家族様が連携し、その時に必要な対応を迅速に行えるように努めている	クリニックの医師・看護師が利用者の健康状態を把握しながら対応にあたっている。利用者・家族の要望を聞きながら最適な支援方法の検討にあたっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご入居者様の急変時や事故発生時の対応については、マニュアルを作成し、全職員での統一した対応が取れるよう努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の防火管理者講習受講、施設内での避難訓練の実施、地域の防災訓練への参加、消防による防災点検などを実施している	事業所内および地域の避難訓練に参加している。日頃より地域の方との接点を持つことで協力体制を築けるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修により、個々の職員がご入居者様の人格尊重・プライバシー確保に対する知識の習得に努め、日々のケアに反映させている	利用者のこだわり等を理解し、一人ひとりの話しの傾聴に努めている。入浴時等についても利用者の羞恥心に配慮するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の職員が、ご入居者様のご自身の思いや希望を伝えられるような関係・雰囲気作りに努め、ニーズの取りこぼしが無いよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課を設定してはいるが、その日のご入居者様の様子や身体状況によって、柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回の訪問理容実施 入浴時の着替え選びや外出時の衣装選びはご入居者様の意向を尊重しつつ、適切な支援を行うよう努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や盛り付け・配膳・下膳・片づけなど、食事に関わる場を積極的に提供するよう努めている 季節の行事の際はその行事に合った食事を提供している	食事の下ごしらえ、盛り付けなど食事作りへの参加を支援している。それぞれのユニットごとの雰囲気や大事にし、皆で囲む食卓がつけられている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は正確に記録に落とすようにし、ご入居者様の状態把握に努めている 食欲低下・体重管理など各ご入居者様にあわせた柔軟な対応を取るようになっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施 訪問歯科による定期的な口腔ケアを実施、その際は職員も一緒に口腔ケアの指導を受けている 口腔内トラブルが確認された場合は訪問歯科クリニックに連絡を入れ、速やかに対応するよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全職員がご入居者様の排泄間隔を把握し、個々に応じたトイレ誘導を実施するよう努めている	自身で記録をつけるなどなるべく利用者の自立した生活を尊重するよう取り組んでいる。便秘については看護師への相談・プルーンジュースの摂取等にて予防を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	全職員がご入居者様の排便状況を把握するように努めている 自然な便通を促す為に、朝のフレッシュジュース・15時のプルーンジュースを毎日提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、その日のご入居者様の様子や状態に合わせて誘導し、拒否された場合は翌日に延期するなど柔軟な対応に努めている 入浴中も楽しんで頂けるような雰囲気作りに努めている	業務改善の中で入浴実施日を週に2回として変更している。入浴を効率的に・集中的に実施することで外出機会の増加等に繋げるねらいをもって行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもご希望があれば居室で臥床対応を取るようにしている また、安眠を促すために15時半以降の運動は控えており、居室内の気温や湿度にも配慮するように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のファイリング・服薬一覧の掲示・処方薬内容の変更の周知の徹底などにより、服薬に対する個々の職員の意識向上に努めている また、症状変化がある場合は看護師に報告し、その都度指示を仰ぐようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご入居者様の生活歴や嗜好などを把握し、普段の会話や家事参加、レクリエーションに活かすように努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の要望にはご家族の協力を頂きながら、できるだけ要望に沿えるように努めている	散歩や行事を通して外出機会を増やせるよう努めている。雨天の際もトレッドミル等の機器を利用して運動機能向上を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご入居者様の要望に応じて、職員の付き添いのもと買い物に行ったり、職員が買い物の代行を行なっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話をおつなぎしたり、ご入居者様から要望があった場合は電話をお貸しするなどしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースだけでなく、各居室の温度や湿度にも配慮している また、日頃の清掃だけでなく週二回の清掃の日を設け、常に清潔な居住空間を提供できるように努めている	水分補給は麦茶から緑茶に変更しており、清掃や消毒への留意とあわせて感染症蔓延防止を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	毎朝の体操や運動、食事の時間以外は思い思いの場所で過ごして頂くようにしており、職員は見守る形で支援している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や備品を居室に置いて頂き、それまでの生活とあまり変わらないような雰囲気の中で落ち着いて生活して頂けるように支援している	居室は利用者それぞれの感性や趣味にてレイアウトされている。音楽を聴いたり、本を読んだりと思い思いに過ごすことができるスペースとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、下駄箱内の配置の工夫などでご入居者様の自立を促すよう努めている		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	49	ウォーキングでの外出機会が多いが、入居者様個々による外出対応が少ない。	社会資源を利用した、外出機会を増やすようにする。	市立図書館やコミュニティセンターを利用する行事による遠足を企画。	6ヶ月
2	40	毎食の汁物がついている日と、ついていない日がある。	敷地内にある菜園にて、汁物の具材の一部をほぼ補えるようにする。	季節ごと、こまめに野菜の植え付けをおこない、種類豊富に収穫できるようにする。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。